

特別企画：「100 年経営企業」アンケート調査

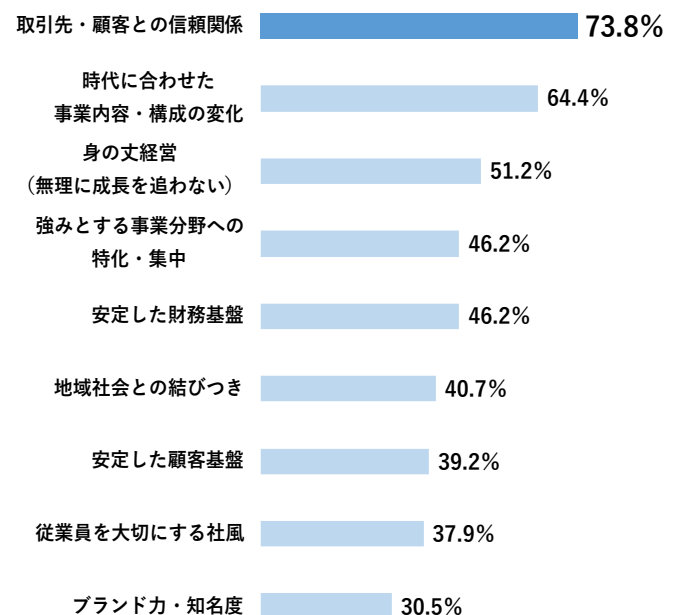
100 年以上事業が続く理由、 73.8%が「取引先・顧客との信頼関係」を挙げる ～ 時代に合わせて変化を厭わぬ姿勢も勝ち残る条件に ～

日本は世界的にも群を抜く「長寿企業大国」である。業歴が 100 年を超える企業は長い歴史のなかで、戦争や相次ぐ災害、需要の変化など幾多の困難を乗り越えてきた。国内外を問わず企業を取り巻く環境が急激に変化する現在、長寿企業から事業継続の要諦を学ぶ意義は大きい。そこで帝国データバンクでは、業歴が 100 年を超える「100 年経営企業」にアンケート調査を実施し、1,090 社から回答を得た。

100 年以上に渡り事業を継続できた理由としては、「取引先・顧客との信頼関係」(73.8%)、「時代に合わせた事業内容・構成の変化」(64.4%)と答える企業が多かった(複数回答、以下同)。時代に合わせた変化を厭わず、顧客に新たな価値を提供し続けることで信頼を獲得してきた 100 年経営企業の姿が伺える。

一方、半数超の企業が無理に成長を追わない「身の丈経営」(51.2%)を挙げた。謙遜とも取れる回答であるが、自社の強みをベースに、歩幅は小さくとも着実な成長を目指す姿勢とも言え、100 年経営の一つのポイントとなっている。

100 年以上に渡り事業を継続できた理由（複数回答）



注:母数は有効回答企業1085社

株式会社帝国データバンク 情報統括部長 上西 伴浩

【問い合わせ先】橋口 和彦 kazuhiko.hashiguchi@mail.tdb.co.jp

旭 海太郎 kaitarou.asahi@mail.tdb.co.jp

情報統括部 tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp TEL 03-5919-9343 (直通)

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

主力事業が創業時から変わっている企業が半数 変化を厭わぬ姿勢がポイントに

事業の主力事業については、「現在も創業事業が主力」が 50.0%、「創業事業から応用・派生した事業」が 39.2%、「創業事業とほとんど異なる事業」が 10.7%を占めた。

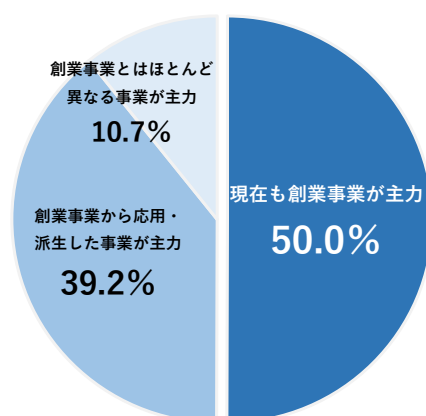
半数は、創業時から事業内容を変化させているが、「現在も創業事業を主力とする企業」も、実は時代に合わせて製品の改良や新しい売り方への取り組みを続けていることが多い。こうした「変化する力」が、事業を長く継続させるために欠かせない要素となっている。

これら 100 年経営企業が今後積極的に取り組みたいと考えることとしては、「新製品・商品・サービスの開発」が 38.0%と最も多かった（複数回答、以下同）。それだけでなく、「SDGs、サステナビリティ経営への取り組み」（32.7%）のような今日的課題にも積極的に取り組む姿勢が見られた。以下、「組織改編や業務プロセスの改善（30.1%）」や「新規事業への進出」（27.2%）が続いた。

長寿企業は、ともすれば保守的な印象を持たれがちである。しかし実際には、現状にとどまらず、常に将来を見据えて変化に挑んでいる企業が多い。

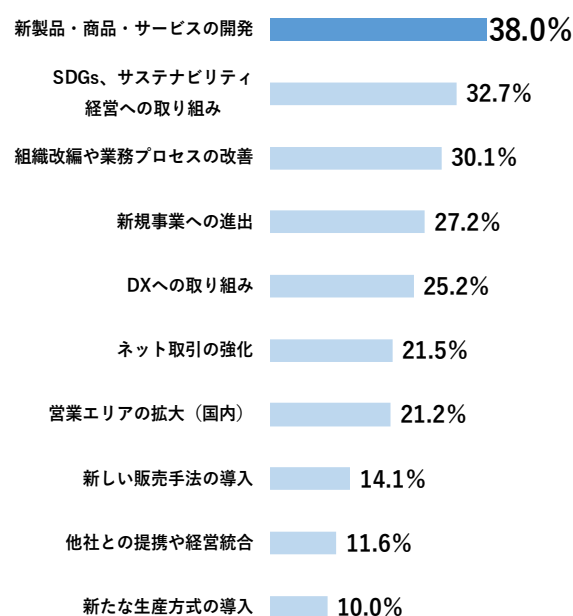
こうした**変化を厭わぬ姿勢**を有していることが「勝ち残る企業の条件」の大きな要素となっている。

主力事業の創業からの変化



注:母数は有効回答企業1081社

今後の取り組み（上位 10 項目、複数回答）



注:母数は有効回答企業1066社

帝国データバンクでは、上記アンケート結果の詳細に加え、3 万 7,000 社にのぼる「100 年経営企業」の全体像や、経営者インタビューを掲載した経営情報誌「TDB REPORT 175 号 特集 100 年経営企業 ～ 勝ち残る企業の条件」を 4 月 28 日に発刊しました。

同レポートの詳細は弊社 Web サイトまたは最寄りの事業所まで。

【TDB REPORT 紹介サイト】

<https://www.tdb.co.jp/lineup/publish/tdbrepl75.html>

